

海外の話題

NY の自転車ブーム

農林中央金庫 ニューヨーク支店長 萩原 忠行

ニューヨーカーは健康維持に熱心であり、ジョギングしている人を良く見かけるが、最近は自転車に乗っている人を良く見かけるようになった。

NY市のブルームバーグ市長は、2007年に「PlaNYC」(PlanのnとNYCのNを掛けたもの)という都市環境に関する長期計画を立ち上げ、4年ごとに計画の見直しを行っており、2030年を目標とする住宅、公園、土壌汚染、河川、上水道、交通、エネルギー、大気、廃棄物、気候変動といった項目について課題と解決の方向を示している。8年振りとなる今回の勤務では、NYの公園施設や花壇の充実を感じているが、本計画の交通に関する部分には、渋滞の解消や排気ガス低減のために自転車の安全性と利便性を向上させることが盛り込まれており、市民の利用を促進するために自転車専用レーンや駐輪用自転車ラックの整備が積極的に行なわれている。

こうした行政の努力や環境と健康への意識の高まりからNYでは自転車利用者が増加しており、毎年5月の第一日曜日に開催される「ファイブボロ・バイクツアー」では、3万人以上の参加者がNY市の5つの区(ボロ)40マイル(64km)を自転車で走り、マンハッタンの通りが自転車で埋め尽くされた。

自分自身も昨年夏に自転車を購入し、天気の良い週末には健康づくりを兼ねて街を走っている。セントラル・パーク一周から初め、徐々にイースト川やハドソン川沿いに整備された自転車専用道を走るようになり、最近ではブルックリン橋を渡ってマンハッタンの対岸のブルックリン地区にまで足を伸ばしている。

さて、そのような中、本年5月27日からNYでも自転車のシェアプログラムが始まり、街で青い自転車に乗っている人を多く見かけるようになった。このプログラムはシティバンクがスポンサーとなっており、市内330ヶ所で合計6,000台の自転車が利用可能となっている。最終的には600ヶ所で1万台の自転車が置かれる予定である。

費用は年間利用で\$95(税込み約\$103)であり、1回あたり45分間無料で利用できる。(1日利用\$9.95、1週間利用\$25(ともに税別)で1回あたり30分間無料利用可能。1日の利用回数は無制限)。本プログラムは大変な人気となっており、年間会員数は既に6万人を超えたとのことである。

本プログラムの経済効果は、初年度36百万ドルが見込まれており、メンテナンスのために170人の雇用を生み出している。また、管理システムにはIT技術が駆使されており、利用可能な自転車や駐輪場等の情報もWebサイトやスマートフォンのアプリで確認できる。

このような取組みは一例であるが、NYはより緑豊かな環境に優しい都市となるべく様々な努力を行っているのである。

最後に、一つだけ疑問に思っていることがある。NYはこれから本格的な秋となり、冬には厳しい寒さがやってくるが、現在街中を走り回っている青い自転車が冬場どのようになるのだろうか。人々の自転車利用がどこまで本気なのか、興味深く見守って行きたい。

(2013年9月16日)